

令和2年1月24日

令和2年度東京都予算案の発表にあたって（談話）

東京都議会自由民主党幹事長 鈴木 章 浩

今年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。都議会自民党は大会期間中の都民生活にも十分に目を配り、都民の皆様と共に、大会を成功させ、東京の未来につなげてまいります。

小池都政になってから、1月の知事査定で初めて明らかになる事業が多く、各局の予算要求段階で議論されていない新規案件が突然発表されるという事が続いています。

予算で大事なのは事業の実効性です。特に新規事業を検討する場合には、共に都政を担う区市町村とも丁寧に意見交換し、事前に都議会とじっくり議論することが欠かせません。パブコメや有識者会議等を免罪符にした知事の独断専行は認められません。

昨年の平成30年度の決算審査においては、知事肝いりで突然開始された、ベビーシッター支援事業や都民提案・職員提案事業などが惨憺たる結果に終わったことが明らかになりました。知事が突然発表することで耳目を集めても、堅実かつ周到な準備がなければ、貴重な予算を付けても、十分な成果は望めないのです。

しかし、知事はこうした、その場限りの話題優先の予算編成を改めようとしません。そして、今回の予算大綱の発表においても、都議会や都民に発表する前に、特定の団体に知事査定の結果を伝えるという、人気取りのしがらみ政治を続けています。

オリンピック・パラリンピック大会が開催される大事な年に、大会前に都知事選挙があるからといって、都予算の政治利用を続ける知事の姿勢は到底容認できません。

昨年12月、我が党は、小池知事に対し、「オリンピック・パラリンピック大会の成功」「防災対策」「築地市場跡地など都有地の適正な活用」「受動喫煙防止条例のオリンピック期間中の周知と実効性ある取組み」など、令和2年度の予算要望を行いました。その翌週、年度末の12月27日になって、都民生活に密接に関わる東京の長期計画に向けた戦略ビジョンを、小池知事は、やはり記者会見でいきなり発表しました。会派への説明は年が明けてからです。

このように、都の重要案件について、都民への説明や都議会との議論を後回しにして、メディアの前で発表することに執着する一方で、特定の団体とのしがらみ作りには熱心に取り組む、こうした知事の姿勢を、我が党は厳しく質してまいります。

そして、令和2年度予算が、東京オリンピック・パラリンピック大会の成功そして、都民福祉の向上に資するものになるよう、第一回定例会そして予算特別委員会において、様々な課題について、質疑を行ってまいります。